

平成28年度 鳥取工業高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

鳥取工業高校は、「真理を究め、責任を重んじ、自治を愛し、勤労を尊び、剛健の気を養う」という校訓を核とし、そして教育の根幹を成す不易の部分として、教育実践を積み重ねてきている。同時に、時代の進展に伴い、技術の高度化、国際化、情報化等が急速に進展するとともに、産業構造、就業構造が大きく変化中、そうした時代の要請や変化に対応した教育を進め、我が国や鳥取県の産業・経済の発展を担う多くの人材を輩出してきた。

現在、「学力の向上」「豊かな人間性の育成」「キャリア教育の充実と進路実現」の3つの重点目標を達成するため、目指す姿やさまざまな具体的方策を明確に示し、組織的な取組によって成果を上げている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 生徒による授業評価アンケートの結果を活用し、「授業の主な改善策」を項目別に作成するなど、生徒の学習意欲を向上させる取組は、組織として優れた事例である。
- ② 職業観・勤労観の育成及び進路意識の高揚を図るため、インターンシップ、企業見学、進路ノートの活用等による3年間を通じたキャリア教育が丁寧に進められ、希望する進路先への高い就職率や就職後の低い離職率という成果を生み、県内企業からの求人増に繋がっている。
- ③ 個別の進路指導では、「面接カード」を使って自ら先生に依頼する「10人面接」の実施や、生徒自らが自己を振り返ることができるワークシートの配布など多様なサポートが実施されている。
- ④ 生活指導では、平成28年度に「事後対応」中心から「予防」重視への転換を図り、日常的に「5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）」・「あさひ（挨拶・作法・人の話を聞く）」を徹底するとともに、前年度の生活指導上の問題点をふまえ、生徒の生活態度・授業態度の改善に向け積極的に指導している。こうした取組により、問題行動等の件数・人数及び遅刻者・早退者が年々減少傾向にあり、生徒指導の成果が現れている。
- ⑤ 「鳥工テクノボランティア」（地域の高齢者宅で、普段お一人では困難な作業をお手伝いしたり、実習で培った技術をいかした電気機器などの整備を行う取組）は、学びを社会貢献につなげるすばらしい活動であり、是非、継続していただきたい。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① グローバル人材の育成については、さらに視点を変えた取組や活動を実施することを望む。たとえば、近隣の公立鳥取環境大学の学生や留学生、海外で活躍している卒業生との交流等を通じてディスカッションの能力を培う機会を取り入れていただきたい。
- ② 手話の取組は、計画的に実施されていないため、LHR（ロング・ホームルーム）や部活動等で取り組むなどの改善を望みたい。
- ③ 施設については、生徒のいる教室棟のトイレが和式であり、早期の改修が望ましい。設備については、実習に必要な機器（三次元測定器、ドラフター、糸のこ盤、コンターマシン、折り曲げ機等）は、時代の進展に伴い専門的な特色ある教育を行うために新規導入・機器更新が望ましい。